



高校生が岩手でいきいき働くために - 高等学校と企業の連携を考える -

令和8年3月卒の新規高卒者における岩手県内の求人倍率は3.77倍（※）と、売り手市場は続いています。こうした状況の中で、岩手で安心して働き、長く定着できる環境づくりは地域の大きな課題です。企業・学校・支援機関が連携し、若者が岩手で将来を描ける支援の充実が求められています。

※令和8年3月新規高等学校卒業予定者の職業紹介状況（令和7年10月末日現在）

TOPIC

高等学校の教員と県内企業の採用担当者による情報交換会を開催

県内高等学校の進路指導の先生方と、県内企業の採用担当者による情報交換会を開催しました。日頃の進路指導や採用活動について意見交換をした内容をご紹介します。

『岩手県高等学校教育研究会 進路指導部会 高校教員と企業の情報交換会』

日時 2025年11月27日（木）13:00～15:30

会場 岩手県産業会館 7階大ホール（盛岡市）

主催 岩手県高等学校教育研究会進路指導部会

岩手県 商工労働観光部 定住推進・雇用労働室

参加 高等学校教員 22校23名 県内企業 20社20名



01：採用活動や進路指導において、「近年大きく変化した」と感じる点がありますか



企業のみなさま



生徒の価値観の変化

企業選択の優先順位が私生活の充実（残業の少なさ、休日の多さ等）に移行している。

福利厚生やワークライフバランスの情報発信が重要になっている。

家庭の影響力が増している

生徒ご本人よりご家族の希望が強いことを感じています。応募前見学に今年度初めてご家族の方に参加いただきました。

企業研究の意識の変化

SNSの普及や情報量の多さ・多様さにより「実経験」を伴わない先入観や自発的な「知ろう」という気持ちの衰退につながっているのではないかと感じます。

生徒の企業研究の充実を感じます。おそらくキャリア教育が学校で充実していることが背景にあると思います。工場見学、出前授業の頻度も増えました。



教員のみなさま



採用選考のオンライン化

コロナ禍を経て、面接はオンラインでの面接も以前より増えているし、今後もその傾向にあるように感じる。従って、オンライン面接の対策も必要と感じている。

採用環境、生徒の意識の変化

求人票において基本給と休日数が増えた。だからと言ってそれだけで選ぶ生徒は少ないと感じている。

高校での指導が大きく関わっているが、就職進学問わず自分の進路先しか知らない生徒が多い。進学希望者でも将来は就職するので、働く意義や地元企業理解に努める工夫が必要。

進路指導の役割の拡大

面接練習や整容指導を厳しくしなくても、内定を頂けるようになった。高校の進路指導の在り方が、受験指導だけではなくっており、1年生からのキャリア指導を学校全体として考える必要がある。

COMMENT

企業研究が深まっているという声がある一方、情報収集における主体性が低下しているのではという指摘も見られ、傾向が二極化しています。こうした変化に応じ、企業と学校が連携して生徒の情報収集をサポートする仕組みづくりがより重要になっています。

02：企業や学校の対応で好印象だったことや、改善を検討してほしいことはありますか

企業と学校それぞれに、採用活動において好印象だった対応や改善点についてお聞きしました。

好印象だったこと

企業

- ・ 学校訪問時に先生が時間を確保してくれ、対応が丁寧
- ・ インターン参加時に先生が現地まで来て、生徒の様子を直接確認してくれた

学校

- ・ 自社について、事前調査をしてきた生徒や先生に感謝している
- ・ 結果連絡や試験案内をメール添付でOKと言ってもらえたのが助かった

改善を検討してほしいこと

- ・ 生徒のミスマッチをなくすため、1社ではなく「2社インターン」を標準化してほしい（2年秋+3年春休みなど）
- ・ FAX中心では記録が残りにくい、メール対応に切り替えたい
- ・ 郵送すべき書類と、メール添付で良い書類の区別を明示してほしい

学校

- ・ 採用内定後、家族向けの説明会（生活・入寮手続きなど）を実施してくれた
- ・ インターン受入れに前向きな企業が増えている
- ・ 受験の有無に関わらず、応募前見学を引き受けて頂いていることは本当に有難い。（最大4社見学した生徒あり）
- ・ 内定後の配属先を早期に連絡してくれた

企業

- ・ 応募前見学で、生徒に入社意思を尋ねる企業がある
- ・ 全国统一選考日より大幅に遅い試験を設定する企業があり、生徒が精神的に不安を感じる
- ・ 書類だけ届き、企業担当者の顔が見えないと判断しづらい
- ・ 4～6月の企業訪問が増え、学校側の対応が困難

COMMENT

丁寧なコミュニケーションや迅速な連絡対応が信頼形成につながっていることが示されました。一方で、連絡手段のデジタル化や、選考スケジュールの透明性などの改善ニーズも共通して見られます。スムーズな連携のために、双方が負担を減らしながら協働できる仕組みづくりが重要です。

先生方に聞きました！

企業の関わり方、伝え方の工夫によって、生徒の興味が高まった事例はありますか？

応募前
職場見学

- ・ 応募前見学で仕事内容の“リアル”が理解でき、応募につながった
- ・ 職場見学で求人票で見えない長所・短所を知り、志望動機が明確になった
- ・ 現場での丁寧なコミュニケーションで、生徒が好印象を持った
- ・ 応募前企業見学で生徒に丁寧に対応していただいた企業には、多くの生徒が受験を希望している

企業の
社会貢献

- ・ 「自分が社会にどれだけ貢献できるか」を気にする生徒もあり、企業の社会的意義を伝えると興味が高まる

ガイダンス
学校行事

- ・ 企業ガイダンス（校内・外部どちらも）が理解を深め応募につながる
- ・ 企業と連携した授業・実習（デュアルシステム等）がミスマッチ防止に効果
- ・ 文化祭・学校行事への企業参加が生徒の興味喚起に役立つ

その他

- ・ 求めるスキルや人物像を具体的に伝えると、生徒が自分を重ねやすくなる（例：英会話が必要、プログラミング力がある、プレゼン力が求められる）
- ・ 来校した企業の情報をプリントにまとめ掲示したところ、それを見て興味を持つ生徒がいた

COMMENT

企業の社会的意義に興味を持つ生徒がいるのは、近年の「総合的な探究の時間」の取組の影響もありそうです。また、企業ガイダンスや授業連携、長期インターンシップなど接点を増やす取組が職業理解の深化につながっています。



ジョブカフェいわて

〒020-0024 盛岡市菜園1-12-18 盛岡菜園センタービル5階

ジョブカフェいわては、岩手県が運営している若者のしごと・就職のサポート施設です。

2025年12月発行